『プラビックス』をさらに改良した『エフィエント』

『プラビックス』をさらに改良し，個人差を小さくした『エフィエント（一般名：プラスグレル）』(☞p.91) が登場しています．

ただし，新しい薬ほど高価なため，副作用や個人差に問題がなければ古くから使われている『パナルジン』でも問題はありません．

Answer 『エフィエント』は，『プラビックス』の個人差を小さくした改良版

『エフィエント（一般名：プラスグレル）』と『プラビックス（一般名：クロピドグレル）』は，どちらも抗血小板薬 (☞p.79) です．

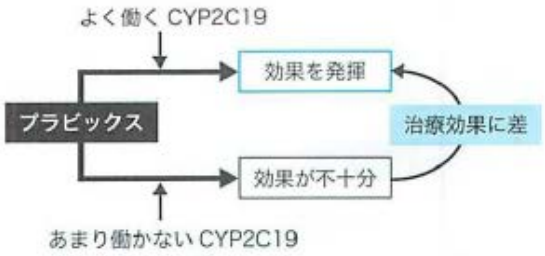
『エフィエント』は，遺伝的素質や持病・生活習慣で効き目に個人差が出ないよう，『プラビックス』を改良した薬です．

ただし，新薬である『エフィエント』は値段も高く，また使用実績や適応症の広さは『プラビックス』の方が優れています．

『エフィエント』の個人差～「CYP2C19」や肝臓・腎臓の機能の影響

『プラビックス』は，そのままの構造では薬として作用しません．吸収された後，主に肝臓の代謝酵素「CYP2C19」による代謝を受けてはじめて，薬としての作用を発揮するようになります[1]．そのため，この酵素が働く人と働かない人の間では『プラビックス』の効果に差が生じてしまいます．いくつかの臨床試験では，**実際の治療効果に差が生じる**ことも報告されています[1]．特に，日本人の約20％はこの「CYP2C19」の働きが遺伝的に弱いことから[2]，『プラビックス』で個人差が生まれてしまう最大の原因となっています．

一方で『エフィエント』は，この「CYP2C19」をはじめとする代謝酵素や，肝機能・腎機能，喫煙の有無などによって効き目に影響しないことが確認されています[3]．つまり，『エ



『プラビックス』の広い適応症

『エフィエント』は新しい薬のため，まだ「心臓」領域にしか適応症はありません．しかし『プラビックス』は古い分，すでに世界でも広く使用され，使用実績が豊富です．そのため，**「脳」・「心臓」・「末梢」の3つの領域で適応症**をもっています（※ジェネリック医薬品では異なる場合があります）．

■ **適応症**

〈エフィエント[5]〉

心臓：経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される急性冠症候群，安定狭心症，陳旧性心筋梗塞

〈プラビックス[1]〉

心臓：経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される急性冠症候群，安定狭心症，陳旧性心筋梗塞

脳　：虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症を除く）の再発抑制

末梢：末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制